

歴史教育学特講「韓国巡検」報告

伊藤純郎*

はじめに

2016年9月20日から22日、筑波大学大学院教育研究科社会科教育コースで開設している歴史教育学特講で韓国巡検を実施し、8人の大学院生とともに歴史・戦争博物館を見学した。本稿では、韓国巡検について、感想を交えながら報告する。

9月20日

最初に、西大門独立公園敷地内にある西大門刑務所歴史館（ソウル特別市西大門区）を見学した。西大門独立公園は、義兵運動、三・一独立運動、抗日闘争などで投獄された人々を称える公園で、1992年8月15日に開園した。

1908年10月に京城監獄として開所した西大門刑務所は、西大門監獄・西大門刑務所・ソウル刑務所（1945年）・ソウル矯導所・ソウル拘置所（1967年）と何回か名称を変更した。1987年、ソウル拘置所の移転ともない、1988年11月、西大門刑務所歴史館として開館した。

2010年11月にリニューアルされ、現在は、展示館のほかに、第11・12獄舎、監獄舎全体を監視統制した中央舎、収監者が労役した工作舎、死刑場、死体を搬出するための秘密通路である屍軀門、隔壁場、三・一独立運動で知られる柳寛順が獄死した女性監獄（2011年復元）、炊事場などがある。

私が、西大門刑務所歴史館を見学するのは5回目であるが、祖国の独立を勝ち取ろうと日本帝国主義に立ち向かって戦った独立運動家の姿に想いを馳せながらも、展示館地下にある地下拷問室や「観覧客の顔を影の形で映像に投影させて、観覧客が直接主人公になって独立運動を体験する」影映像体験コーナーを見学するたびに、複雑な気持ちを毎回抱く。

続いて、徒歩で独立門を経て、独島体験館（ソウル特別市西大門区）へ向かった。

独島体験館は、「独島（竹島）の人文・自然科学的な研究調査成果を展示」（日本語版パンフレット）したもので、東北アジア歴史財団が入居するビルの地下1階に2012年9月に開館した。「韓半島の住民が独島を認知・経営してきた過程を前近代・近代・日本統治時代・解放後に分け、独島の長い歴史を一目でわかるように展示」した歴史・未来館、「自然環境を韓半島と独島とで比較しながら展示」した自然館、および船

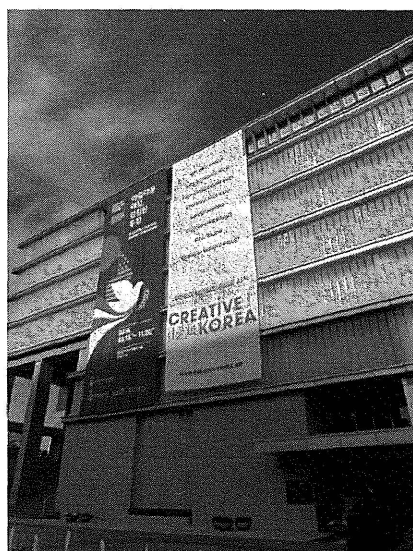


写真1 大韓民国歴史博物館
(9月20日、宮崎尚撮影)

で独島探検を体験させる4D映像館からなる。

その後、徳寿宮から市庁を経て世宗大路に進み、大韓民国歴史博物館（ソウル特別市鍾路区、写真1）を見学した。

大韓民国歴史博物館は、韓国で初めての国立近現代史博物館で、19世紀末の開港期から現在にいたるまで、「苦難と逆境を乗り越えて発展してきた大韓民国の歴史を後世に伝えるとともに、国民の誇りと願いを込めて未来の希望を語る歴史文化空間」（日本語版パンフレット）として、光化門やアメリカ大使館の近くといった数多くの観光客が訪れる場に、2012年12月に開館した。

地上8階建ての建物に、大韓民国の「胎動」「基礎確立」「成長と発展」「先進化」を描いた4つの常設展示室、企画展示室、近現代史を「一家族の物語として再現」した子ども体験展示室、映像体験室などがある。

常設展示室では、「経済成長と民主化を同時に成し遂げ」「世界に飛躍する大韓民国の姿」が誇らし気に描かれており、西大門刑務所歴史館や独立記念館とは異なる雰囲気漂っていた。

9月21日

2日目は、ソウル駅から韓国鉄道（KORAIL）で天安駅に向い、郊外にある独立記念館（天安市東南区）

*筑波大学

を見学した。

独立記念館は、「近代における韓民族の国難克服の精神とその努力の歴史」を展示した博物館で（独立記念館発行『独立記念館』日本語版，2011年）、「全国民が自発的に募金運動を行い，関連資料を無償で寄贈」し（日本語版パンフレット），三・一独立運動が起きた地である天安に1987年8月15日に開館した。周知のように独立記念館が建設された背景には，1982年の「教科書問題」がある。

2010年にリニューアルされ，現在は，7つの展示室のほかに，4D立体映像館，韓国の伝統的な建築様式である切妻屋根を現代風に表現した建物であるキョレの家（キョレとは同胞のこと），旧朝鮮総督府撤去部材展示公園，「韓民族の飛翔を象徴する」キョレの塔，統一念願の丘などがある。

敷地面積は，東京ディズニーランドの8つ分に相当する約400万㎡。とにかく広い。

独立記念館の入口に立つキョレの塔を進み，キョレの家に向かうと，多数の太極旗（韓国国旗）が掲揚された広場があった（写真2）。「光復節」と開館日にちなみ815本あるという。

独立記念館内の提示を見る前に，キョレの塔・815本の太極旗・キョレの家を目にする。改めて，博物館の見学とは，展示された資料だけでなく，博物館の敷地に足を踏み入れた瞬間から始まっていることを感じた。

私が独立記念館に足を運ぶのは3回目である。見学に当たり最も気になっていたのは，日韓両外相会議で合意した「慰安婦問題」であった。

「慰安婦問題」に関する展示は，「民族の試練」をテーマにした第2館にあった。展示解説では，「人道に反した犯罪－日本軍「慰安婦」」と題して，次のような文章が記されていた。

1930年代より侵略戦争を起こした日帝は，韓国の女性を日本軍「慰安所」として強制連行した。主に10代から40代の韓国女性が無差別に強制連行されたが，彼らは中国，東南アジア，日本など，日本軍が駐屯する戦地に送られ，日本軍の「性奴隷」として虐待を受けた。日帝が敗戦すると，虐殺されるか，捨てられたケースが多く，生存者の多くは故郷に帰ることができず，異国の地で虐げられた人生を閉じなければならなかった。日本軍が主導し，組織的で大々的に扱われた日本軍「慰安婦」は日帝が行った蛮行の中でも最も人道に反した，極悪の犯罪行為である。

そして，日本軍「慰安婦」として「強制連行」する再現模型（写真3・4）がいくつも展示されていた。



写真2 太極旗とキョレの家
（9月21日，小林一輝撮影）

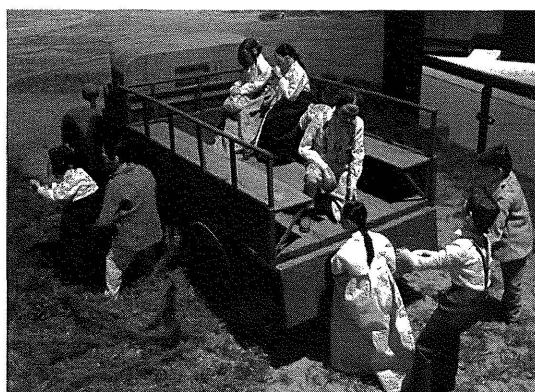


写真3 「強制連行」の再現模型
（9月21日，筆者撮影）

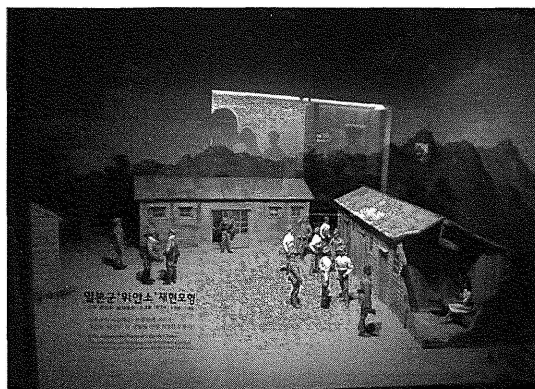


写真4 日本軍の「慰安所」再現模型
（9月21日，筆者撮影）

写真4は、「日本軍の「慰安所」の演出・再現模型」というタイトルで、『独立記念館』に掲載された唯一の「慰安婦」資料で、「日本軍が駐屯する戦場に建てられた日本軍「慰安所」の様子を再現した模型。当時慰安所に通う軍人たちは隠語として“朝鮮征伐に行く”あるいは“支那征伐に行く”と表現したという」と解説文がついている。

2013年10月に独立記念館を見学した時の展示と比べ、展示資料・解説など一部差し替えや変更が見られたが、「慰安婦問題」の認識に大きな変化はなかったように感じられた。

独立記念館見学後、ソウルに戻り、孫基禎記念館（ソウル特別市中区）を見学した。参加した院生が社会科学教育学特講授業で孫基禎（写真5）を教材化する必要があり立ち寄ったのである。

孫基禎記念館は、ベルリンオリンピック陸上マラソン競技に出場し、アジア人で最初に優勝した孫の栄誉を称えた記念館で、孫の母校である養正義塾の建物をリニューアルし、孫基禎生誕100周年にあたる2012年10月14日に開館した。マラソンで優勝するまでの孫基禎の一代記を再現した第一展示室と「世界を制覇した彼の行跡を中心に、民族と国家の大切さを考えさせる」第二展示室、企画展示室、講堂、教室からなる。

孫基禎に関しては、1936年8月13日付『朝鮮中央日報』と25日付『東亜日報』が孫の優勝を報道するにあたり、第一版で検閲を通過した後、第二版の記事において孫の「日の丸」を抹消したことにより、『東亜日報』が無期停刊（結果的には1937年6月まで）の処分を受け、『朝鮮中央日報』が自主廃刊となった「日章旗抹消事件」が有名である。展示を通してこの

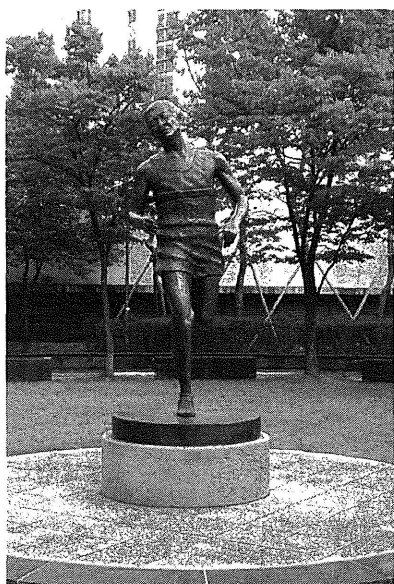


写真5 孫基禎記念館前庭に建つ孫基禎像
(9月21日、筆者撮影)

経緯を詳細に学ぶことが出来た。

また、孫基禎が生前、オリンピックでの自分の国籍を「Japan」から「Korea」に、名前を日本読みの「Kitei Son」から、韓国読みの「Kee-chung Sohn」に変えることを国際オリンピック委員会（IOC）に求めていること、1988年のソウルオリンピックの開会式において五輪スタジアムに入場する聖火ランナーをつとめたことなどを知った。

9月22日

最終日は、戦争記念館（ソウル特別市龍山区）を見学した。戦争記念館は、古代から現在にいたる戦争の記録を伝え、犠牲者を悼む場として、旧陸軍本部の跡地に1994年6月に開館した。「英霊を追慕する空間」である護国追慕室、「先祖たちの対外抗争史」を展示する戦争歴史室、「北韓軍の南侵背景から戦争の経過および停戦協定調印まで韓国戦争の全過程」や「国連の役割」を展示する韓国戦争室、「韓国国軍の海外派兵活動と国連平和維持活動」を展示する海外派兵室、国連の発展過程を展示する国連発展室のほか、屋外には屋外展示場や平和の時計塔・兄弟の像・朝鮮戦争のモニュメント（写真6）などがある。

戦争博物館の特徴は、同じ民族が戦った「最大の悲劇」である「朝鮮戦争」に関する展示が大半を占めることである。展示から「同胞」に対する複雑な「愛憎」を感じた。



写真6 朝鮮戦争モニュメント
(9月22日、宮崎尚撮影)

おわりにー韓国歴史・戦争博物館

韓国の歴史・戦争博物館は、韓国ナショナリズムや民族的国民的アイデンティティが強く反映された「国民的博物館」である。韓国にとっての「他者」である日本や北朝鮮に対する「歴史認識」が、ストレートに展示されている。これは、「日帝」植民地・分断国家（一民族二国家）・朝鮮戦争・独裁政権と続いた韓国の

「歴史」にもとづく「歴史認識」である。

ひるがえって「日本」の歴史・戦争・平和博物館の展示はどうだろうか。

「歴史」や「歴史認識」を学ぶことの重要性とともに、歴史・戦争博物館とは何かについて考えさせられた韓国巡検であった。